

## ピッツバーグ大学図書館の日本美術コレクションのご紹介

グッド長橋広行\*

皆さん、こんにちは。この度はJALプロジェクトで日本に招待していただき、多くのことを学ばせていただきました。本当にありがとうございます。

私はアメリカ、ペンシルバニア州ピッツバーグ大学で日本学司書をしておりますグッド長橋広行と申します。グッドと申しましても、日本人の両親のもとに東京で生まれた日本人です。私は両親にもらった広行という名のおり、広く行動することに縁が深いようで、20歳で北京の夏季語学研修に参加して以来、世界の様々な国や都市を訪れるようになりました。大学4年生のときに交換留学生に選ばれて香港中文大学で2年間学び、その間に中国本土や台湾、そして東南アジア諸国を旅行しました。卒業後は日中専門商社に勤務し北京に1年半駐在しました。そうしたアジアでの経験の中で、アメリカという国の影響力を強さを感じました。アジアをもっと知るには、一度アメリカを見なければいけない。そういう思いから28歳で渡米しました。

アジア学の修士号を取得後、縁あって全米日系人博物館で働き始め、第二次世界大戦中の強制収容所の展示の解説を翻訳、広報するようになり、マイノリティから見るアメリカの歴史に多くのことを学びました。南北米諸国の日系人の共通語が日本語であることから、博物館を代表してペルーやブラジル、カナダの会議に参加することもありました。資料センターの蔵書をゼロから築き上げる仕事を手伝っているうちに、司書という仕事に興味を持ち、もう一度大学院に戻って図書館情報学の修士号を取得、日本研究者をサポートする現職に就きました。こうして長い学生生活と幾つかの職を転々とする間に、気が付くと日本を除いて13ヵ国114都市を訪れていました。そして16年間住み慣れたロサンジェルスからピッツバーグに引越す際は、妻と2人、そして犬1匹で1週間かけてドライブしました。約3,900キロ、10州をまたぐ旅でした。

ピッツバーグ大学は1787年、日本では松平定信が老中になり寛政の改革を始めた年に、ピッツバーグ・アカデミーとして設立されました。設立当初はこのようなアメリカ開拓時代を象徴するログキャビンが校舎でした。1819年にウェスターン・ユニバーシティ・オブ・ペンシルベニアという大学に昇格し、現在に到っています。来年、230周年を祝うピッツバーグ大学は、18世紀に設立され現在も続いているアメリカでも数少ない大学のひとつです。

スライド番号6は現在の大学校舎の一部です。真中にあるのが中央図書館のヒルマン図書館で、左上はフリック美術学部校舎です。中央上は1枚目でお見せした「学びの聖堂」の正面入り口にある噴水です。その右は、ケチャップで有名なハインツ氏の寄付で建設されたハインツ・メモリアル・チャペルです。その下は音楽学部、左下は「草競馬」などの作曲で有名なステファン・フォスター・メモリアルです。ステファン・フォスターはピッツバーグの出身で、このメモリアルの中には彼に関する書籍や楽譜、さらに様々な楽器なども収集する図書館があります。

スライド番号7はフリック美術図書館の内部です。ニューヨークにあるフィリック・コレクションと呼ばれる美術館は、鉄鋼で財を成したヘンリー・クレイ・フリックの邸宅に彼の集めた美術品が展示されていますが、ピッツバーグ大学のフィリック美術図書館には、彼の妻のヘレン・クレイ・フリックが寄贈してくださった美術品があります。

昨年のJALプロジェクトで本学の日本美術史を研究する大学院生、キャロライン・ワグラーさんが参加させていただき、ピッツバーグ大学の美術図書館と東アジア図書館の基本的な紹介をワークショップでしましたので、私はピッツバーグ大学図書館が所蔵する日本美術コレクションを中心にをご紹介します。

\*グッド ナガハシ ヒロユキ (ピッツバーグ大学図書館日本学司書)

まず最初は月岡耕漁の『能楽図会』と『狂言五十番』です。月岡耕漁は1869年(明治2年)に生まれ、月岡芳年など何人かの日本画家に学び、『能楽百番』『能楽大鑑』など能画を得意とした、明治、大正時代に活躍した日本画家です。本学の『能楽図会』は、先ほど紹介したヘレン・クレイ・フリック氏からの寄付をもとに、美術史学科の初代学科長が1926年ごろ購入したものだと言われています。全5巻の折本に各50枚の能画が収められており、全部で250枚のコレクションです。『狂言五十番』は、月岡耕漁とその娘、月岡玉瀨の共作で、1冊の折本に50枚がまとめられています。こちらは2010年にピッツバーグ大学アジア研究センターの援助を受けて、図書館が購入しました。

バリー・ローゼンステール・ジャパニーズ・プリント・コレクションは、ピッツ大OBのローゼンステール氏から寄贈頂いた126枚の浮世絵のコレクションです。役者絵がコレクションの約半分60枚ほどを占めています。次に多いのが『源氏五十四帖』で12枚あります。

この2つのデジタル・プロジェクトは図書館貴重書室とデジタル・ライブラリーが共同で行ったプロジェクトで、このようにデジタルの精度はとても高く、拡大してもとても鮮明に見ることが出来ます。しかしプロジェクトの開始当時、私たち東アジア図書館は参加しなかったため、デュプリケート・サーチをしっかりとせず、デジタル・コレクションの重複という問題が後になってわかりました。月岡耕漁の『能楽図会』も『狂言五十番』も、独立行政法人日本芸術文化振興会が運営する文化デジタルライブラリーで、精度の高いデジタル資料が公開されていました。ローゼンステール・コレクションでデジタル化した豊国や国芳の役者絵、国貞の『源氏五十四帖』も早稲田大学や立命館大学など複数のサイトで公開されています。貴重な美術資料の収集は海外の研究者のためにこれからも必要ですが、デジタル化作業が重複しないよう、日米の機関の協力が求められます。

3番目にご紹介したい本学の日本美術コレクションは71本の絵巻物の複製です。多くの国宝や重要文化財の絵巻物を含むこの複製は1910年代から1930年代に制作されたもので、『能楽図絵』の購入も援助してくれたヘレン・クレイ・フリック氏が、1930年代に寄贈してくださったものです。それぞれの絵巻物はオンライン・カタログには登録されているものの、美術学部の教授方もアート・ライブラリアンも全体像がつかめないうでいました。そこでこのようにオリジナルの所蔵機関名や、e国宝などインターネットで公開されている画像のリンクを加えたリストをグーグル・シートで作成し、公開しています。

最後にご紹介したいのが、最近貴重書室で発見された掛軸です。これはマシュー・リッジウェイ将軍 (General Matthew B. Ridgway) からの寄贈品を整理していたところ見つかったもので、『禁城松翠』と箱書きされ、「大正丙寅(ひのえうま)夏六月作栖鳳」という署名と「霞中庵(かちゅうあん)」という印章の入った縦95センチ、横88センチの大きな日本画の掛軸です。同名の竹内栖鳳作の作品が、泉屋(せんおく)博古館分館に所蔵されていますが、こちらは1928年の作です。マシュー・リッジウェイ将軍とは、ダグラス・マッカーサー将軍の後に、第2代連合軍最高司令官として、1951年4月から1952年4月の日本占領統治終了まで日本にいた将軍で、退役後はピッツバーグのメロン産業調査研究所の評議委員会会長を引き受けたことからピッツバーグ市郊外で晩年を過ごし、1995年に家族が遺品の一部をピッツバーグ大学に寄贈して下さいました。この掛軸がリッジウェイ将軍の所蔵になった経緯などが全く分からず、真偽のほどもまだ分かりませんが、日本画の海外流出の研究なども絡めて今後調べていきたいと思っています。もし情報をお持ちの方がおりましたら、電子メール ([hng2@pitt.edu](mailto:hng2@pitt.edu)) にてぜひご連絡ください。

ピッツバーグ大学では中世の日本美術史研究家として有名なカレン・ガーハート教授の研究室で、博士後期課程の学生たちが鎌倉時代から江戸時代の様々な美術作品とその歴史的、文化的、政治的背景を研究しています。

最近の研究対象を挙げると、足利義教（よしのり）将軍の室礼、石山寺縁起絵巻に描かれた儀式、刺繍仏と曼荼羅、浅井三姉妹の肖像画など多岐に亘っています。今回の研修で多くの博物館や研究機関がたくさんのデータベースを公開していただいているのが分かりましたが、まだ彼らの研究に必要な資料をオンラインのみで提供できるわけではありません。今回、国立博物館や美術館、資料館に伺って一級美術資料を見学させて頂けたこと、日本屈指の美術関係機関の図書館員や情報専門家の方々とネットワークを築けたことは大きな成果です。この機会に得た成果を北米に持ち帰り、またこの研修会で築いた日本と海外のネットワークをより強くして行きながら、ピッツバーグ大学だけでなく北米の日本美術研究者への支援をより一層行っていくことを皆さんにお誓いして私の紹介を終わります。



University of Pittsburgh

ピッツバーグ大学図書館の  
日本美術コレクション

JAL2016公開ワークショップ  
2016年12月9日

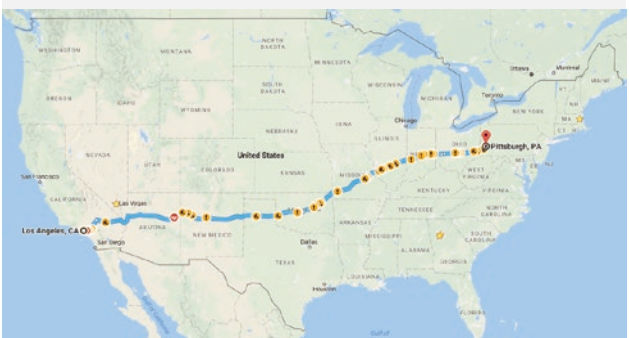
日本研究司書  
グッド長橋広行  
hng2@pitt.edu



Show all cities (114)

20才から18歳114都市を仕事や旅行で訪れる  
Trip Advisor: <https://www.tripadvisor.com/TravelMapHome> [accessed 2016/10/29]

2



1988年に渡米、ロサンゼルスに16年滞在、2004年にピッツバーグ大学に職を得て移転、12年勤務

3



1787 ピッツ・アカデミー

4



ピッツバーグ大学

5



フリック美術図書館

6



University of Pittsburgh

月岡耕漁  
*Tsukioka Kōgyo*  
The Art of Noh, 1869-1927

Home Biography Kōgyo in His Own Words Nōgaku zue Kyōgen gojūhan Nōgyo tsukuru

月岡耕漁 Tsukioka Kōgyo  
The Art of Noh, 1869-1927

Nōgaku zue 能楽書種, or Pictures of Noh, is a spectacular series of Japanese color woodblock prints by the artist Tsukioka Kōgyo (1869-1927). The University of Pittsburgh owns a rare, complete set of this series, published at Tokyo between the Meiji years 30-35, or 1897-1902. Bound in traditional folding album format, the series comprises five volumes of 241 prints inspired by the plays of classical Japanese noh theatre. The complete set of prints, held by the ULS Special Collections Department, is digitally reproduced here along with a descriptive catalog and contextual essays.

Enjoy this collection?

You also might like

Barry Rosensteel  
Japanese Print Collection  
from our Special Collections  
Department.

草薙

胡蝶

夷大黒

金岡

University of Pittsburgh

ULS Digital Collections BETA

Home Collections Exhibits Partners About

Home » Barry Rosensteel Japanese Print Collection

Barry Rosensteel Japanese Print Collection, ca. 1760-1899

Description

Woodblock prints from 1760-1899 by over 40 artists depict Japanese culture through detailed depictions of portraits, landscapes and theatrical performances, taking into account some of Japan's rich history.

Depositor

University of Pittsburgh

坂東三津五郎 初代 歌川豊国

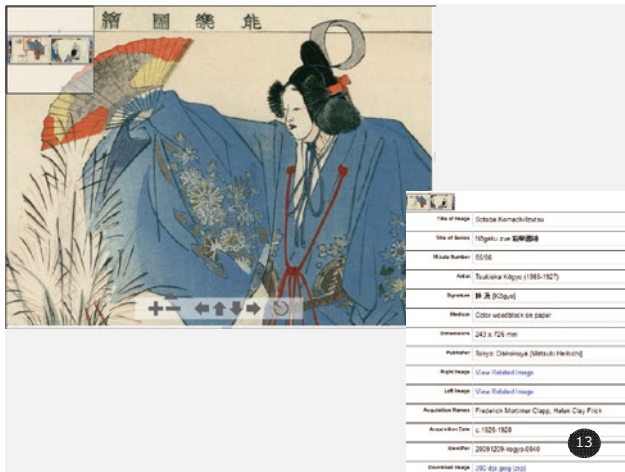
曾我五郎時宗 市川海老藏 歌川国定

誠忠義士伝 織部易兵衛武庸 歌川国芳

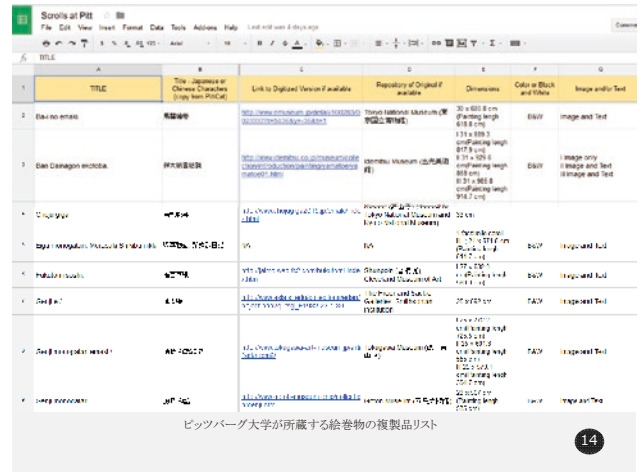
源氏五十四帖之三 歌川豊国

源氏五十四帖之廿二 歌川豊国

グッド長橋広行



13



14



竹内栖鳳作『禁城松翠』

15



16